中 学 校

平 成 15 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

特　別　活　動

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平　成　１５　年　度

教 育 研 究 員 名 簿（特 別 活 動）

区市町村名	学　　校　　名	氏　　名
台　東	浅 草 中 学 校	登　坂　一　晴
世田谷	尾 山 台 中 学 校	川　原　真夕子
練　馬	開進第一中学校	◎　鈴　木　訓　文
葛　飾	上 平 井 中 学 校	岡　田　隆　平
江戸川	松江第一中学校	○　小　野　昌　彦
八王子	第　三　中　学　校	古　谷　知　美
狛　江	狛江第二中学校	齋　藤　弘　忠
清　瀬	清瀬第二中学校	○　佐　藤　　学

◎世話人　　○副世話人

（担　当）東京都教職員研修センター 指導主事　　山　田　悟　志

目　　　次

Ⅰ　研究主題

1　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2　副主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(1) 仮説の設定について

(2) 仮説の検証について

Ⅱ　研究の内容

1　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2　学級活動にブレーンストーミングの手法を取り入れることについて・・・・・・・ 6

(1) ブレーンストーミングのとらえ方

(2) 学級活動の指導に取り入れることの効果

(3) 指導のねらい

(4) ブレーンストーミングの進め方について

3　ブレーンストーミングを取り入れた学級活動年間指導計画・・・・・・・・・・・ 8

(1) 年間指導計画の作成にあたって

(2) 年間指導計画における指導のねらいと効果

(3) ブレーンストーミングを取り入れた学級活動年間指導計画

4　ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の実践（研究授業）・・・・・・・・・12

(1) 学級活動（１年生)の実践事例

(2) 学級活動（２年生)の実践事例

5　授業の結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

(1) 実践事例の結果

(2) 実践事例の考察

(3) ブレーンストーミングを取り入れた授業の成果

(4) 授業における評価の工夫と結果

Ⅲ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

2　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

Ⅰ　研究主題

生徒の自主的・創造的な集団活動を通して、豊かな人間関係をはぐくむ特別活動

1　研究主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

最近の子どもたちの問題行動には、過激な暴力行為や性の逸脱行動、薬物の乱用などといった見過ごすことのできない深刻な問題があり、社会問題として大きく取り上げられている。このような状況を生み出す要因や背景は様々であるが、最近の子どもたちの特徴として、社会の基本的なルールやマナーを遵守する意識や、自分や他人をかけがえのない存在として自覚し意識することが薄れてきていること、善悪の正しい判断に基づいて自己の欲求や衝動を抑制することができないことなどが指摘されている。

さらに、社会環境が変化し、携帯電話やコンピュータ、インターネットなどの通信機器の普及などにより、不健全な情報が子どもの行動に影響を及ぼしていることも指摘されており、こうした社会の変化や子どもの変容に家庭や学校が十分に対応しきれていない面がある。学校教育においても、不登校、学校不適応、中途退学などへの対応も依然として重要な課題である。

これらの課題を解決するためには、子どもたちが様々な体験の中で葛藤し、困難を克服しながら人と人とのかかわり合いを深め、「豊かな人間関係をはぐくむ」ことができるようにすることが重要である。そのため、学校教育は子どもを多様なかかわりの中で育てる役割を担っていかなければならない。

(2) 中学校教育の視点から

中学校においては、生徒一人一人が真の自己実現を目指し、変化の激しい社会で自己を見失うことなく生きるために「生涯にわたって自ら学び、自ら考える態度を身に付ける」ことや、「自己の長所を発揮し、集団に貢献できる」力、「集団や社会の一員として望ましい判断と行動ができる」力を育成することが求められている。中学校３年間で多くの友人とかかわり合うことを通して、自他の考えの違いを理解し、認め合い、よりよい人間関係を築くことを目指した指導が担任を中心に実践されている。ところで、生徒の中には、人とのかかわり方に迷っていたり、その機会も十分にもつことができなかったりするなどの状況もあり、同世代の友人だけでなく、異年齢のかかわりの減少についても懸念されている。そこで、指導の改善を図るためには、生徒一人一人が自主的にかかわろうとするような学校・学年・学級における集団活動を計画的に指導することが必要で、「特別活動」の指導にその効果が期待できると考えた。

(3) 学習指導要領から

学習指導要領『特別活動編』においては「望ましい集団活動を通して個性の伸長と豊かな人間性の育成」「集団や社会の一員としての自覚と責任感を深め、社会性の育成の一層の充実を図る」ことが示されている。そこで、本研究では特別活動の指導の中から、学級活動に視点をあて、集団での活動のねらいを達成するため、「役割の自覚」「補い合う」「助け合う」活動を中心に、生徒同士の互いのかかわりを深めるとともに、自己の個性を発揮できるような心の居場所としての学級づくりを目指した。併せて、教師の適切な指導・助言によって望ましい集団活動を実践することが課題の解決につながると考え、本研究主題を設定した。

研究副主題

自己表現力を養い、自他を尊重し合える学級活動の工夫と評価

2　研究副主題設定の理由

(1) 中学生の発達段階から

中学生の多くは、急激な心身の発達とともに自我に目覚める。生活においては保護者よりも自分を理解してくれる友人に依拠して過ごそうとする傾向が強くなる生徒もみられる。その結果、生徒は自分の好む集団との狭い仲間意識にとらわれたり、自分のわがままや大人への反発から偏った判断に陥ったりすることもある。あるいは、孤独や不安を強く感じて自分だけの世界に入りこみ、周囲の人やものごとに無関心になるなど、青年前期にありがちな特徴がみられることもある。

(2) 中学校の学級活動から

中学校においては、生徒が様々な集団での活動や多くの人とのかかわりを通して成長できるよう、学年や学級、部活動、生徒会など様々な場面が設定されている。生徒は、これらの環境に身を置くことにより、集団活動を体験し、自己と他人の考え方の違いを理解したり、自分の長所や短所を知るなど自己理解を深めたり、自己の存在感が実感されたり、よりよい自己を形成することが可能となる。と同時に生徒は集団生活の向上に自分が貢献できる喜びを学ぶこともできる。とりわけ、学校生活の基本単位である学級での生活は、共通の課題や悩みを解決する能力を培い、よりよい人間関係を自ら築こうとする態度を育成することができる一番身近な社会環境でもある。学級活動を通して好ましい人間関係を形成する力をはぐくむには、「互いを認め合い、他者の考え方や生き方を尊重できる態度を養うこと」「自分の在り方をみつめる自己理解の能力を高めること」が重要である。そのために生徒は自らの考えをもち、正しい表現を通して相手に正確に伝える方法を身に付けることが基本となる。

(3) 学級活動の指導と評価から

学級担任においては、生徒の好ましい人間関係を築くため、学級の環境や条件の整備を図ることが必要である。学級活動における指導のねらいとしては、自由な意見交換や話し合いを機会あるごとに設定し、生徒が自主的に自己を表現することができ、互いの長所を認め、よりよく評価し合うことのできる人間関係に基づいた学級活動の質の向上を目指すことなどがある。

そこで、本研究では、生徒が互いに理解し、尊重し合える人間関係に基づいた学級づくりを目指し、どのように学級活動の指導を工夫・改善していけばよいかを探ることとした。

そのため、生徒が学級の中で共通の問題としてとらえることができる題材を設定し、自由に話し合える環境の中で自己表現力を養うとともに、教師は生徒の適性、長所、短所、興味、関心などを理解し、他者の個性を理解し尊重できるような指導計画の開発を目指した。

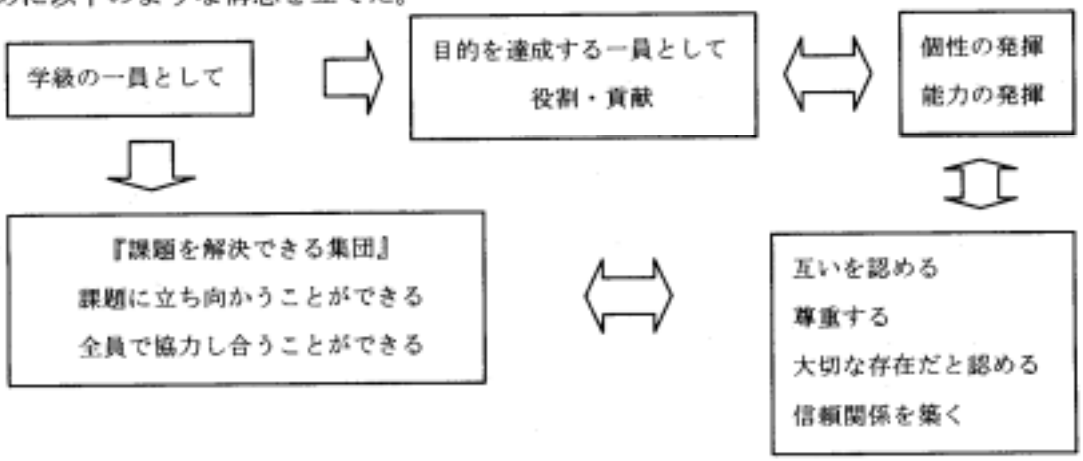
また、学級活動の評価については、本年度の研究員から「評価方法が分からない」「評価は必要か」などの意見があり、上記の指導の工夫と併せて学級活動の評価方法を検討することが必要であると考えた。学級活動を生徒自ら自己評価できる機会と生徒同士が相互評価できる機会を設定した指導案をもとに、生徒と教師がそれぞれの活動を客観的に振り返り、指導と評価の一体化を目指した資料を作成することとし、本研究副主題とした。

3　研究の仮説

学級活動の指導に、ブレーンストーミングの手法を取り入れることは、自他の考え方の違いを認め、課題を協力しながら解決していく中で、豊かな人間関係をはぐくむ有効な方策となるであろう。

(1) 仮説の設定について

中学校学習指導要領「特別活動」に「実際の生活経験や体験活動による学習を通して、全人的な人間形成を図るという意義」「生徒の集団による活動そのもののもつ意義」が述べられている。このうち、学校における生徒の様々な活動の基盤となる学級活動の特質の中から、「当面する諸課題の解決を通して生徒自ら自己指導能力を養う活動」という視点を取り上げ、この達成のために以下のような構想を立てた。



生徒同士のかかわりが希薄で、自己の存在感を実感する機会が少ない生徒への指導の改善を目指し、仮説の設定にあたっては、以下の２点について注目することとした。

① 個人及び社会の一員としての在り方や自己及び他者の個性の理解と尊重

② 学級生活の充実と向上にかかわる諸問題の解決

(2) 仮説の検証について

仮説を検証するにあたっては、以下の２点について留意し、具体的な授業の実践を通して、ねらいを達成するための有効性を探ることとした。

① 生徒が自己の存在感を実感することができる集団活動の場を設定し、よりよく自己を形成することを通して、学級の問題などの解決に積極的にかかわることができる集団となることをねらいとする。ブレーンストーミングの手法を用いた課題解決型の学習を行い、生徒、教師それぞれが活動を振り返り、評価をする。

② 生徒の発達段階を考慮し、中学校３年間を見通した学級活動の年間指導計画を作成し、ブレーンストーミングの手法を学級活動に取り入れる時期や回数、実施するエクササイズの内容について検討する。

上記の観点から、ブレーンストーミングの手法を取り入れた学級活動の指導案に基づいた授業を行い、授業後の評価によりその有効性を検証することとした。

Ⅱ　研究の内容

1　研究構想図

研究構想図

研究員がとらえた生徒の実態
・明るく、友情を大切にする
・集団のために自ら考え判断しようとする機会が少ない
・よりよく自己の能力を発揮する積極性に乏しい

指導の現状と課題
・生徒の個性を把握し、能力を十分に発揮する機会をもつ
・生徒の主体性を尊重し、自己の存在感が実感できる機会を増やす

育てたい生徒像
・自己の長所を発揮し、集団に貢献できる生徒
・集団や社会の一員として望ましい判断と行動ができる生徒

特別活動の目標
・集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図る
・集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的態度を養う
・人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う

学級活動の目標
・集団生活の向上を図る
・個人および社会の一員としての在り方を身に付ける
・進路指導、ガイダンス機能の充実

研　究　主　題
生徒の自主的・創造的な集団活動を通して、豊かな人間関係をはぐくむ特別活動

研究副主題
自己表現力を養い、自他を尊重し合える学級活動の工夫と評価

仮　　説
学級活動の指導に、ブレーンストーミングの手法を取り入れることは、自他の考え方の違いを認め、課題を協力しながら解決していく中で、豊かな人間関係をはぐくむ有効な方策となるであろう。

研　究　内　容
① 学級活動の指導にブレーンストーミングを取り入れた年間指導計画の作成
② ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の指導とその評価の工夫

研　究　方　法
① 研究構想　② 生徒の実態把握
③ 授業による検証　④ 評価

２　学級活動にブレーンストーミングの手法を取り入れることについて

(1) ブレーンストーミングのとらえ方

本研究部会では、ブレーンストーミングの手法をどのように学級活動で取り入れることができるか情報を収集し、活用の視点を以下の２点にまとめた。

①「ブレーンストーミング」とは、集団でアイディアを出すための会議方式の１つである。一般的には５名から１０名程度の人が集まって、できるだけ焦点を絞った問題についてアイディアを出し合う。この手法により、多くの意見やアイディアを出すことで、その中から有効な解決策を見いだし、それらを分析し結合させることによって、問題の解決能力を高めることができる。

②「ブレーンストーミング」の手法は、集団の力によって参加者の創造性を開発しようとするものである。集団のつくる雰囲気の中で、この手法を繰り返し実施することからメンバー一人一人の創造性を育てることを目的としている。

（参考資料）ビジネスチェックカード（アイディア創造編）　小林 末男 著
教育訓練技法 （教育技法研究会編）　経営書院 刊

この視点を基本に、ブレーンストーミングの手法を学級活動に活用することにより、生徒は安心できる学級の雰囲気の中で固定概念にとらわれず、自由な考えやアイディアを出し合うことや、そこから想像と連想を働かせて、さらに多くの新しいアイディアを生み出すことができると考えた。

(2) ブレーンストーミングを学級活動などの指導に取り入れることで効果が考えられること

ブレーンストーミングのもつ特質が学級活動などの指導のどの場面で、どのように有効に活用できるか探った。

① より多くの考えが必要とされる問題の解決には、深く考える力と様々な角度から物事をとらえようとする力がはぐくまれる。個性豊かな、多様な発想力が培われる。
② 自分の考えをもち、自由に発言することで発表することの楽しさを知り、自己を表現する力が高まる。また、自分の意見とは違う他者の意見を正しく聞きとる力がはぐくまれる。
③ 個人が考えたことを集約し、集団としてよりよい考えに改善していくことは、集団を構成するメンバー一人一人の考えを尊重し、協力する態度や人間関係を深めることができる。
④ 多くの意見を集約することでリーダーとしての資質の向上が期待できる。
⑤ 身近で共通の課題を題材とすることで、学年の始まりの時期や学校・学年行事の前後、クラスの雰囲気が停滞しがちな時期など年間を通して、学級活動の様々な場面で活用を図ることができる。
⑥ 学級活動の指導のほか、生徒会活動、委員会活動などでの活用を図ることもできる。

以上のようなブレーンストーミングのもつ特質が学年や学級、班活動などの集団活動の各場面でどのように生かすことができるか、具体的な授業や指導実践を通してその効果を探る必要がある。本研究では、特別活動の中から学級活動の指導を選び、ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の指導案と年間指導計画を作成し、検証授業を行うこととした。

(3) ブレーンストーミングを学級活動で取り入れた上での指導のねらい

学級活動に取り入れることで、よりよい指導効果を得るために、ブレーンストーミングの特質を考慮し、下記の５点を指導のねらいとした。

① 自己を表現する力の向上
② 他者を理解する力の育成
③ 発想したり想像したりする力の育成
④ リーダーの育成
⑤ 意見をまとめ、よりよいアイディアを生みだす力の育成

学級で人とのかかわりが希薄で円滑な人間関係ができなかったり、自己を表現することが苦手だったりする生徒がみられる。それは、生徒自身の性格などに起因している場合もあるが、学級での人間関係や雰囲気にうまく適応できず、自分を表現する力を十分に出し切れないで悩んでいる生徒の場合もある。特定の生徒のみの主張や考えが学級で取り上げられることが多い場合には、自分の意見は採用されないという先入観をもつ生徒もおり、発言しても無駄であるという考え方が先に立って、自発的に意見を言わなくなってしまうことがある。

このような学級の雰囲気や生徒の態度を改善するために、ブレーンストーミングの特質を学級活動の指導に取り入れることは、生徒のもつ能力を引き出すことができる方法のひとつであると考えた。生徒の心の中に隠されている考えが安心して表に出せる学級の雰囲気づくりや他人の心情を理解できる人間関係の構築は、学級指導をする上での基本的な方針となる。

また、様々な意見を取りまとめる役のリーダーの育成を目指し、一人一人の個性的な考えを尊重しながら､新たな意見の創造をすることの大切さに気付かせることも指導のねらいとした。

(4) ブレーンストーミングの進め方について

ブレーンストーミングの効果を高めるため、以下の４つのルールを設け、指導を展開した。

① 発案に対しての批判は避ける。 個性的で良質なアイディアを出すために、自由で気楽な雰囲気が必要である。
② 否定的な考えは避ける。 嘲笑される、非現実的である、などの否定的な考えは自らの発想に制限を設けてしまう。単なる思いつきを含め、既成概念や固定観念から開放され、自由な発想を呼び起こす。
③ 発言・アイディアの量を求める。 アイディアの数が少ないと発想に力がわかず、新しいものや良いものが生まれにくい。多種多様なあらゆる視点からのアイディアを望むようにする。
④ 他との相談は避ける。 他との打ち合わせは、斬新なアイディアを妨げ、自らの考えを消極的にさせる。また、集中力に欠けるという面からも発想を生み出すときは単独で考えることが必要になる。

これらのルールについて生徒にあらかじめ説明をするとともに、出されたアイディアをまとめるリーダー、書記の選出もしておくことが必要である。これらの点を踏まえた指導により、ブレーンストーミングの手法が生かされ、ねらいに即した結果が期待できると考えられる。

３　ブレーンストーミングを取り入れた学級活動年間指導計画

(1) 年間指導計画の作成にあたって

学級活動の指導のねらいを十分に達成するためには、各学年での発達段階に配慮した学習内容を、適時、適切に準備し、３年間を見通した指導計画に基づいた実践が必要である。

本研究では、各学年における指導の中で、学級や生徒の状況により、どのような内容のブレーンストーミングを取り入れて実施すれば効果的な成果をあげることができるかを考え、適宜必要と考えられる題材を選択できるようにした。また、年間指導計画に基づいた授業の実施については、各学年年間３５時間の授業時数を確保した上で、ブレーンストーミングの効果を上げるのに必要と考えられる配当時数と実施時期を検討した。

まず、特別活動の年間指導時数の設定にあたっては、中学校における学級活動の指導上外すことのできない生徒会活動などの指導に充てる時間数をあらかじめ確保した上で、学級活動の指導でブレーンストーミングを活用できる時数を検討した。各学年の学級活動において、生徒同士が信頼関係を築いたり、学校生活への円滑な適応を進めたりするための支援や、学級が一丸となって目的を達成するための指導などの時間に注目し、ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の実施時数は各学期ごとに１時間と学校行事の開催時期に１時間の合計４時間の実施がふさわしいと考えた。

次に、実施時期の選定については、生徒が人間関係に悩みがちになったり、学級への不適応感をもったり、進路の決定に不安を抱いたりしがちな時期や、お互いに学級の雰囲気に慣れ、発言者等が固定化してしまったような時期、これまでの学級活動を振り返る学期や学年のまとめの時期などが実施にふさわしいと考えた。また、人間関係がより深まる要因ともなる学校行事の実施時期や学級・学校生活の中で解決すべき共通の問題が発生した時などにも注目して、学級活動の中にブレーンストーミングを取り入れる時期を探った。

以上のことから、学級活動の年間指導時数３５時間のうちブレーンストーミングを取り入れた学級活動に４時間あてた年間指導計画を作成することとした。

(2) 年間指導計画における指導のねらいと効果

指導内容を大きく「学級活動」と「学校行事への取り組み」の２つに分け、指導のねらいに即した指導の効果や指導後に予測できる生徒の変容を考えた。下記の６つの指導のねらいを達成し、指導の効果を得るためには、生徒の学習状況に応じて実施時期を検討して実施する。

指　導　の　ね　ら　い	実施時期の例	予想される指導の効果（生徒の変容）
① 自己を表現する力の向上 ② 他者を理解する力の養成	学期の始まり	自己を表現し、他者を理解する力の向上
③ 発想力の向上 ④ リーダーの資質の向上 ⑤ 多くの意見から、よりよいアイディアへ集約し、整理統合する力の育成	学期の中程	学級内の固定化された人間関係や、停滞した雰囲気を改善し、一人一人の発想を発展的に集約、統合できるリーダーの育成
	学期の終わり	これまでの反省から、新たな目標の設定
⑥ 協調性と意欲の向上	行事実施時期	学級のまとまりの意識と意欲の向上

(3) ブレーンストーミングを取り入れた学級活動年間指導計画

学級活動　第１学年　　＜年間３５時間のうちブレーンストーミングを取り入れた学級活動（表中●印）に４時間充てる＞

ねらい	１ 中学生としての自覚をもち、中学校生活へのよりよい適応を図る。 ２ 自己を知り、仲間、クラスでのまとまり、団結力を高める。

	学級活動の指導例	生徒の状況から考えたブレーンストーミングを取り入れる理由	学級活動でのブレーンストーミングの位置付けや指導のねらい 『・・・』は主題名	指導概要	予想される指導の効果
4月	○入学式 ●学級作り ○自己紹介・個人目標 ○学級目標・委員・係決め ○選択教科ガイダンス ○部活動ガイダンス	生徒は中学校へ入学した直後、期待感や不安感を抱く時期である。新しい環境や友人に慣れるための場を設定することが必要である。	『好きなこと』 新しい級友との活動を通し、互いの意見を受容し合うことで自他の理解を深め、自信をもって自分の意見を表現する。安心して生活できる学級の雰囲気を作り、学級への帰属意識を高める。 （ここでブレーンストーミングの仕方を体験する。）	入学直後であり、互いを良く理解し合うために自分の好きなことについて考えさせる。自分の考えたことを自信をもって発表させる。	自己表現や他者理解による好ましい友人関係の構築と、よりよいクラスの雰囲気が醸成される。豊かな心情が育成される。
5月	○各学年行事　遠足 ○定期考査 ○生徒総会				
6月	●運動会 ○定期考査 ○進路学習	新しい友人もできて中学校生活にも慣れたところで、自分やクラスに関して理解を深めてきている時期である。学級が団結して行う学校行事の意義を考え、楽しさを体験させることが大切である。	『運動会を成功させるために』 学校・学年・学級への帰属意識を高め、一致団結してひとつのことに取り組む大切さと、みんなが一人のために、一人がみんなのために何ができるかを気付かせる。 （学校や学年、学級の状況に合わせてほかの学校行事などで指導をしてもよい。）	運動会を成功させるために自分がどのように集団の一員として役割を行うか考えさせる。学校行事などに積極的に参加する意欲をもたせる。	行事を通し、互いの理解を深め、集団での団結力が高められる。役割を担うことで責任感が生まれ、リーダーが育成される。
7月	○１学期の反省・夏季休業日の注意 ○安全指導・避難訓練				
9月	○生徒会役員選挙 ○進路学習 ○安全指導・避難訓練				
10月	○定期考査 ○委員・係決め ●学級作り ○文化祭・音楽発表会	夏季休業日をはさみ友人関係が希薄になったり、新学期を迎え、学校生活や学習面に不安を抱くことが考えられる時期である。ガイダンス機能の活用を図ることが大切である。 後期委員会・係などの交代などの節目の時期。文化祭・音楽発表会等、学級で取り組む行事を控えた時期である。 目標を達成する喜びを体験させることが大切である。	『ハンバーガーの新商品を考えよう』 級友との活動を通し、１つのものをみんなで作り上げていく喜びを体験し、一人一人の考えを尊重し他者理解を深める。様々な意見を集約したり新しいアイディアを創造するリーダーを育てる。安心して自分の意見を表現できることで、自己に自信をもち学級への帰属意識を再度高める。	一人一人がハンバーガーショップの企画担当者として、新しい商品のアイディアを考えさせる。他人の意見を尊重する態度を育成する。	建設的で前向きな態度を養い他の意見を受け入れることで新たな発想が生み出される。 学級集団のまとまりの向上がみられ、学級での信頼関係が深まる。
11月	○マラソン大会 ○進路学習 ○定期考査				
12月	○進路学習 ○２学期の反省・冬季休業日の注意				
1月	○新年の抱負 ○書き初め展 ○進路学習				
2月	○進路学習 ○定期考査 ○安全指導・避難訓練				
3月	○３年生を送る会・卒業式に向けて ●学級作り ○１年間の反省・春季休業日の注意	進級や春休みを迎え、２年生になることへの期待や不安を抱く時期である。一人一人の生徒理解が大切である。	『こんな先輩になりたい』 中学校で経験した人間関係や自己１年間を振り返り、先輩になることの誇りと自覚をもたせる。	自分が理想とする先輩像、後輩から慕われる先輩像を考えさせる。	１年間を振り返り、新たな計画と目標を立てることで自己啓発を図る。

学級活動　第２学年　　＜年間３５時間のうちブレーンストーミングを取り入れた学級活動（表中●印）に４時間充てる＞

ねらい	１ 中堅学年としての自覚から先輩や後輩への協力や思いやりの心をもち、学校・学年・学級の活動に積極的に参加することを通して、他に貢献できる姿勢をはぐくむ。 ２ 他者への理解を深め、互いを認め合いながら個をのばす人間関係を養う。

	学級活動の指導例	生徒の状況から考えたブレーンストーミングを取り入れる理由	学級活動でのブレーンストーミングの位置付けや指導のねらい 『・・・』は主題名	指導概要	予想される指導の効果
4月	●学級作り ○自己紹介・個人目標 ○学級目標・委員・係決め ○進路学習 ○選択教科ガイダンス ○部活動ガイダンス	新しい学年・学級を迎えて、期待感や不安感を抱く時期。 互いの考え方を理解し、認め合うことで新たな友人関係を広げる機会とすることが大切である。 まだ互いの様子を探り合っているような時期でもある。 明るくオープンな学級づくりを目指すことが大切である。	『居心地の良いクラスとは』 級友との活動を通し、クラスの目標や組織をみんなで作り上げていく。互いのアイディアを出し合いひとつのことをつくる喜びと、他者の理解を深める。進んで発表する態度をはぐくむことで自分に自信をもち学級への帰属意識を高める。 （ブレーンストーミングの仕方について再確認をする。）	新しい学年のスタートとして、居心地の良いクラスに必要な考え方や大切なことを考えさせる。 一人一人の考えを尊重する態度を育てる。	自己表現・他者理解による好ましい友人関係の構築とよりよいクラスの雰囲気が醸成される。 一人一人のよさを認めることで、自信をもって人間関係を広げることができる。
5月	○各学年行事　移動教室 ○定期考査 ○生徒総会				
6月	○運動会 ○定期考査 ○進路学習				
7月	○１学期の反省・夏季休業日の注意 ○安全指導・避難訓練				
9月	●学級作り ○生徒会役員選挙 ○進路学習 ○安全指導・避難訓練	夏季休業日をはさみ友人関係が変化したり、学校生活や学習に不安を抱いたりすることが考えられる時期である。 生徒会の役員選挙や委員会・係などの交代の時期。励ましが大切である。	『理想の学校とは』 生徒会選挙や後期の委員会等学校の中で中心となって活躍を期待され、また貢献できるようにするための意識をもち、他の協力が重要であることを認識させる。高い理想と目標を目指して、新しく創造的なアイディアを出し合う。	理想とする学校像について自由な意見を出し合い、前向きで建設的な考え方をさせる。	高い理想と目標をつくるためのアイディアを出し合う。 集団生活の向上を図る。
10月	○定期考査 ○委員・係決め ○安全指導・避難訓練 ●文化祭・音楽発表会	文化祭や・音楽発表会などの学校行事に学級全体が一致団結して取り組む時期である。 上級生から学校のリーダーシップを受け継ぐ時期である。 行動目標をもたせることが大切である。	『文化祭・音楽発表会を成功させるために』 １年生の時に経験をしたことをもとに中堅学年としてさらなる向上を目指す。体育的・学芸的行事の意義を考え、体験を通して集団の団結力を深める。	学校行事の意義について考えさせ、文化祭・音楽発表会などの行事を成功させるために必要なことや自己の行動目標を考えさせる。	自己の前向きな態度を養い、学級集団のまとまりを高め、リーダーを育成する。
11月	○マラソン大会 ○進路学習 ○定期考査				
12月	○進路学習 ○２学期の反省・冬季休業日の注意				
1月	●新年の抱負 ○書き初め展 ○進路学習	新年を迎え、新たな気持ちで自分の進路について少しずつ具体化を図る時期である。 これまでの学習や生活を振り返り、より高い目標に向かって取り組む態度を育てる時期である。 一人一人の生徒理解が大切である。	『今年はこんな年』 自分の将来像を考えさせる中で、進路や、最上級生となるための自覚と誇りをもたせる。 理想を求める強い意志をはぐくみ、自己理解を深める。 正しい職業観や勤労意欲などを育てるために資料を準備し、職業調べや体験など啓発的な経験をさせる。	今年の計画をたて、自分自身のことや将来についての希望をもたせる。 様々な進路があることを理解させる。	１年間を自己評価し、反省に基づいた新たな目標をもつ。 自己の存在価値をとらえ、進んで自己啓発を図る。
2月	○進路学習 ○定期考査 ○安全指導・避難訓練				
3月	○３年生を送る会・卒業式に向けて ○１年間の反省・春季休業日の注意				

学級活動　第３学年　　＜年間３５時間のうちブレーンストーミングを取り入れた学級活動（表中●印）に４時間充てる＞

ねらい	１ 最高学年としての自覚をもち、後輩や仲間を思いやりながら積極的に活動し、他に貢献できる姿勢をはぐくむ。 ２ 自分に自信をもち、自己の良さをさらに伸長しながら、前向きな態度でものごとに取り組むことで自己の進路を開拓し、望ましい自己実現を図る。				
	学級活動の指導例	生徒の状況から考えたブレーンストーミングを取り入れる理由	学級活動でのブレーンストーミングの位置付けや指導のねらい 『・・・』は主題名	指導概要	予想される指導の効果
4月	○自己紹介・個人目標 ●学級作り ○学級目標・委員・係決め ○進路学習 ○選択教科・部活動ガイダンス	最終学年を迎えての学級への期待感や将来への不安感を抱きやすい時期である。学級の仲間が支えてくれていることを感じさせたい。 また、中学校の最大のイベントである修学旅行に向けての準備をする時期である。 行動目標をもたせることが大切である。	『株式会社　３年○組』 級友との活動を通し、ひとつのものをみんなで作り上げていく喜びと、他者理解を深め、自分に自信をもち学級への帰属意識を高める。 学級における役割を分担し、責任ある行動をとらせ、互いの信頼感を高める。 （ブレーンストーミングの仕方を再確認する。）	自分のクラスを株式会社に見立てて、必要なことを考えさせる。 組織の一員として大切なことは何か、新しいアイディアを出し合い学級づくりの企画を考えさせる。	自己表現・他者理解による好ましい友人関係の構築とよりよいクラスの雰囲気が醸成される。 一人一人のよさを認めることで、自信をもって人間関係を広げることができる。
5月	○各学年行事　修学旅行 ○定期考査 ○生徒総会				
6月	○運動会 ○定期考査 ○進路学習				
7月	○１学期の反省・夏季休業日の注意 ○安全指導・避難訓練				
9月	●学級作り ○進路学習 ○生徒会役員選挙 ○安全指導・避難訓練	夏季休業日をはさみ友人関係が変化したり、学校生活や学習に不安を抱いたりすることが考えられる時期である。 ガイダンス機能の活用を図ることが大切である。 進路の決定に向けて、学級の人間関係が気まずくなりがちな時期でもある。 誰もが悩みを打ち明けられる学級の雰囲気をつくりたい。	『もしもクラスが３人だったら』 自己の進路のことが気になるあまり、自己中心的な考えで行動しがちな態度を見直す。直接自分にかかわりのないことには関心をもたず、他者に任せてしまう考え方と自己の目標や理想を大切にしたいという考え方の葛藤をテーマに互いの考えを出し合う。 自分の考えを素直に表現できること、悩みをみんなで克服する学級の雰囲気づくりの大切さを理解させる。 学校行事に全力で取り組む態度の大切さを知らせる。	クラスが自分以外に２人しかいないという設定で、メンバーからして欲しいことや、してあげられることを考えさせる。 率直な意見の交換が信頼関係を生むことに気付かせる。	互いの言い分を受け止め、相互理解を深めることができる。 人には好き嫌いや様々な考え方があることを知り、相手の立場に立ってものごとを考えられるようになる。 集団のまとまりが高められ、リーダーが育成される。
10月	○定期考査 ○委員・係決め ○文化祭・音楽発表会				
11月	○マラソン大会 ○進路学習 ○定期考査				
12月	○進路学習 ○２学期の反省・冬季休業日の注意				
1月	○新年の抱負 ○書き初め展 ○進路学習				
2月	○進路学習 ●卒業式に向けて ○定期考査 ○安全指導・避難訓練	進路の決定と卒業に向けての準備を行う時期である。最後まで全力で取り組む姿勢をもたせたい。	『後輩に残すもの』 奉仕活動や卒業式を含め３年間を振り返り有終の美を飾る心構えをもたせる。	卒業までに何ができるかアイディアを出し合う。	３年間を自己評価し、最後まで努力する態度が育成される。
3月	○奉仕活動 ●３年間の反省 ○卒業式	将来への期待や不安と中学校生活を終える喜びや別れを体験する時期である。自己評価をさせることが大切である。	『２０年後の同窓会』 将来への前向きな気持ちと仲間との最後の友情を深めさせる。	未来の同窓会を企画し、お互いの将来像を考えさせる。	新たな目標に向かう強い意志と感謝の気持ちが育成される。

４　ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の実践（１）
＜実践事例：Ａ中学校（第１学年）＞

(1) 題材名　「ハンバーガーの新商品を考えよう」

① 目的：ひとつのものをみんなで作り上げる喜びを体験し、一人一人の考えを尊重し、他者理解を深める。あわせてリーダーを養成する。また、ブレーンストーミングの進め方や手法、ルールについて知る。

② 本時におけるブレーンストーミングの進め方

自由討論方式で数多くの意見を出し合い、そのことが刺激となって、独創的なアイディアが引き出される。

↓

集団で考えた多くの意見が共有できる。

↓

個人の発想が集団に生かされる。

＜ブレーンストーミング進行上のルール＞
- 批判をしないこと
- 何にもとらわれないこと
- 意見の質より多くの意見が出されるように考えること
- 出された意見を結合し発展させた意見を言うこと
- 相談しないこと
- 否定的な意見を出さないこと

③ 指導の流れと活動内容
- ４人～６人のグループをつくり、リーダーシップを誰がとるかを確認しておく。
- 意見を出すことを目的として「自分がほしい物」というテーマを板書する。
- 「ハンバーガーの商品開発」いうテーマで意見を出し合う。
- 出し合った案をグループごとに種別する。
- 人の意見を確認しながら新しい案を見付け出す。

(2) 題材設定の理由

一人一人が自分の意見を発表できる環境づくり、自分の意見が取り入れられた喜びを味わうことができるようにする。このことによって、自信をもって意見の交換が行えるようになり、生徒一人一人の表現力を高め、クラスの団結を強めることができると考える。

(3) 学級の実態

全体的に学習に対する意欲があり、落ち着いた雰囲気の中で学習や生活をしている。活発に発言し行動力のある生徒と比較的おとなしく発言の少ない生徒がみられる。

(4) 本時の評価の観点と評価規準

ブレーンストーミングの特徴を生かし、生徒の変容をねらい「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４観点について規準を設定した。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア　本時の授業に関心をもち、積極的に活動に取り組んでいるか。	イ　他の生徒の意見や考えを正しく理解して、自分の考えを改善することができたか。	ウ　自分の考えを正しく相手に伝えることができたか。 エ　他の生徒の発表を集中して聞くことができたか。	オ　他の生徒の意見を否定せずに受容することの大切さが理解できたか。

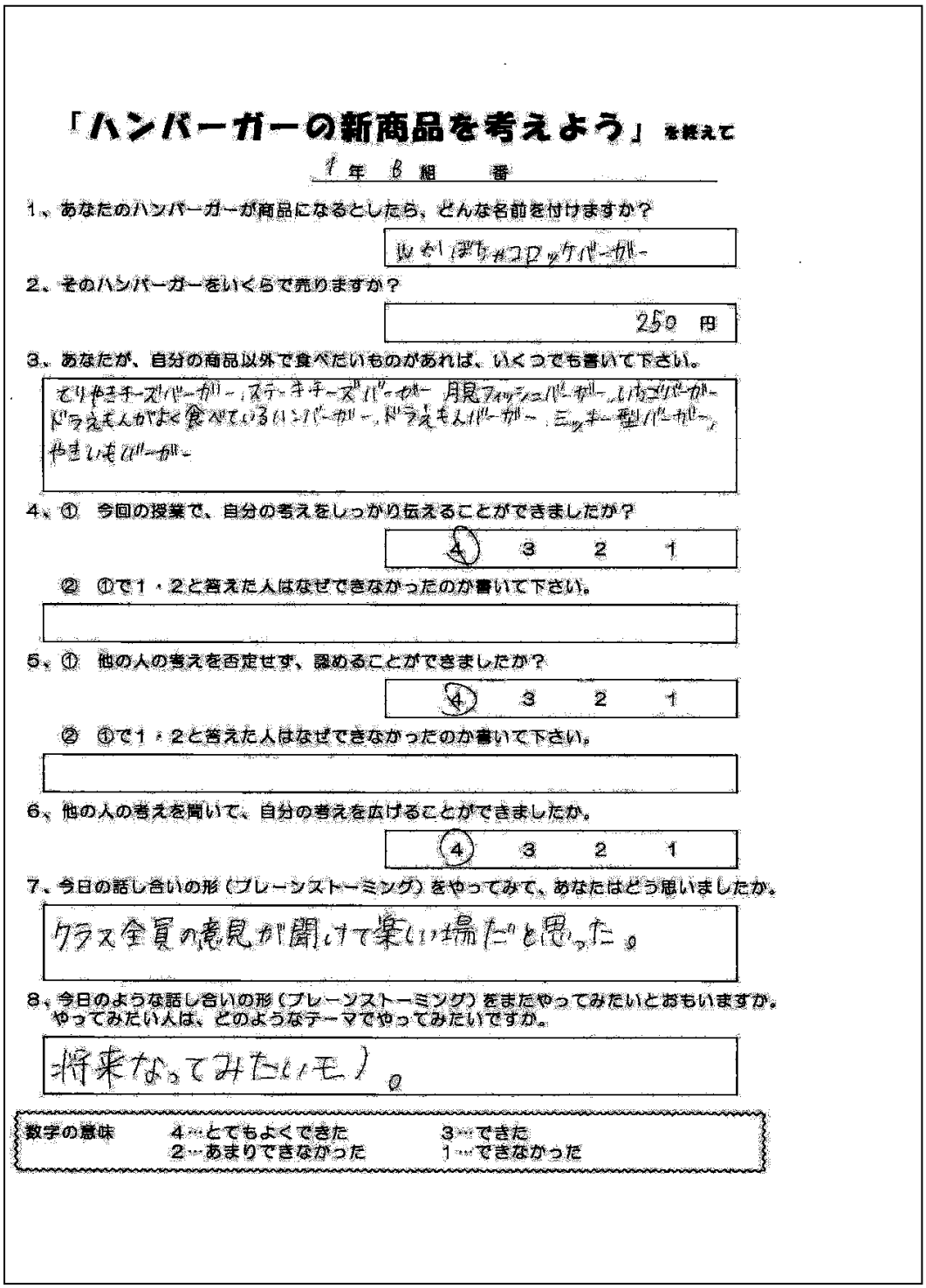
(5)本時の展開例

授業者は、帰りの学級活動の時間などを利用して、前日までに本時のテーマと活動の内容ついて説明し、グループの意見をまとめ、発表するリーダーを決めておく。

	学習内容 （教師の指示）	生徒の学習内容・活動	指導上の留意点	評価
導入	・ 本時の活動の方法について示す。 ・ はじめに「ほしい物」の例で練習をする。練習カードに記入する。	・教師の説明を聞く。 ・一人一人が「ほしい物」を挙げてカードに記入する。 ・リーダーがボードに貼る。 ・ボードに貼られたカードの確認をする。	・ 「ブレーンストーミング」の用語は、ここではまだ用いない。 ・ 活動が進んでいないグループに対し、助言する。 ・ カードを確認し、批判する言葉が使われている場合は、ルールを確認する。 ・ 多くの人の意見を集めることが大切なので、新しい意見を多く出すよう促す。	アウ エ
展開	・ 本時のテーマを発表する。 テーマ「ハンバーガーの新商品を考えよう」 ・ 意見の掲示 発展させた意見の発表	・ 本テーマの「ハンバーガーの新商品」について、各自に配布されたカードに記入する。 ・ 各グループで出された新商品を７つに分類し、分類のカードに記入する。 ・ グループの代表者が分類ごとのボードに班のカードを貼り付ける。 ・ 各自ボードを見て統合、結合、発展させた意見を自由に発言する。	・ 活動が進んでいないグループには、身近な例を示しヒントを与える。 ・ 分類の仕方について具体的な例を示して助言する。 ・ 出された意見には、必ず評価をして、すべての考えを尊重する。 ・ 批判する言葉を使わないようルールの徹底をする。	アウ ウエ イ
まとめ	・ 「ブレーンストーミング」という用語を紹介する。 ・ 授業のまとめのワークシートを配布する。	・ ブレーンストーミングの意義を確認し、その言葉を知る。 ・ 今日の授業について評価カードに基づいて自己評価をする ・ ワークシートの記入をする。	・ 最初に出た意見と統合、発展させた意見を見て、多くの意見が独創的な意見を生み出すことを一人一人に認識させる。	オ

(6)授業資料

授業のまとめワークシート



「ハンバーガーの新商品を考えよう」を終えて

1年 B組 番

1、あなたのハンバーガーが商品になるとしたら、どんな名前を付けますか？

ぼくのぼちゃコロッケバーガー

2、そのハンバーガーをいくらで売りますか？

250 円

3、あなたが、自分の商品以外で食べたいものがあれば、いくつでも書いて下さい。

てりやきチーズバーガー、ステーキチーズバーガー 月見フィッシュバーガー、いなごバーガー ドラえもんがよく食べているハンバーガー、ドラえもんバーガー、ミッキー型バーガー、やきいもバーガー

4、① 今回の授業で、自分の考えをしっかり伝えることができましたか？

(4) 3 2 1

② ①で1・2と答えた人はなぜできなかったのか書いて下さい。

5、① 他の人の考えを否定せず、認めることができましたか？

(4) 3 2 1

② ①で1・2と答えた人はなぜできなかったのか書いて下さい。

6、他の人の考えを聞いて、自分の考えを広げることができましたか。

(4) 3 2 1

7、今日の話し合いの形（ブレーンストーミング）をやってみて、あなたはどう思いましたか。

クラス全員の意見が聞けて楽しい場だと思った。

8、今日のような話し合いの形（ブレーンストーミング）をまたやってみたいとおもいますか。
やってみたい人は、どのようなテーマでやってみたいですか。

将来なってみたいモノ。

数字の意味 4…とてもよくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

このワークシートにより、「ブレーンストーミングが理解できたか。」また、ブレーンストーミングを活用することによって、「自分の意見を伝えることができたか。」といった質問に対しての自己評価を行った。

回答には「人の意見をヒントにして自分の意見が良いものになることがわかった。」「楽しくて自分の意見をはっきり言えた」など、肯定的な意見が多くみられた。

ブレーンストーミングを取り入れた学級活動の実践（２）
＜実践事例：Ｂ中学校（第２学年）＞

(1) 題材名　　「もしもクラスが３人だったら」

① 目的

中学校２年生の２学期の頃になると、学年内の生徒の人間関係がある程度確立してくる。クラス内における友人関係やかかわり合いの有無がはっきりと表面化してきている時期でもある。発言力のある生徒は自分の意見を主張し、たとえそれが他に受容されないような意見であっても、周りの生徒は反論できずに黙ってしまうことがよくある。

また、クラス全員で行事等に取り組もうとしても、ごく限られた数名の意見に左右され、ほとんどの生徒は意見を言わずにそれに従って行動することもある。このような状況の中では、学級活動で活発な話合いを行い、クラスの意見をまとめることは非常に難しい。

その原因として考えられることとして、

・生徒が自分自身の意見に自信をもっていないこと
・人間関係を気にし過ぎて他人に反する意見を出せないこと
・多数決で決定してしまうことが多く、少数派の意見の持ち主があきらめてしまうこと
・自分の意見に他人の意見を取り入れてより良い方向に変えることができないこと

などに整理できる。

学級でこのような様子がみられる時期に、一人一人の生徒が意見を出し合い、お互いの意見を認め合うことのできる学級活動の工夫が必要である。そこで、ブレーンストーミングの手法を用いて「クラスのために各自がするべきこと」を話し合う学級活動の時間を設定した。この手法を用いることで、全員の意見を否定せずに取り入れることが可能となり、それによって一人一人が自分の意見に自信をもち、意見を言いやすい環境をつくることができる。また、他人の意見を受け入れ、自分の意見を発展させていく姿勢をはぐくむことにより、お互いを尊重し、協力して行動できるより良い人間関係をつくり上げていくことができると考えた。

② 指導の流れと活動内容

事前に「クラスが３人だったら、他の２人のために何をするか」というテーマでアンケートを取り、授業展開に活用する。

（本時の指導の流れ）

・「クラスが３人だったら、何をしてほしいか」というテーマで、各自の意見を紙に記入する。
・４～６名のグループで、各自が書いた紙を出し合う。同じ意見や似たような意見は一つにまとめる。
・各グループで出た意見を、「学級内での仕事」、「学校生活」、「学習」、「友人関係」、「その他」という内容ごとに分類しながらクラスで発表する。
・発表された意見の中から、「自分が他の２人のためにできること」は何かを考えて記入する。

なお、授業者はあらかじめ本時に向けて以下の資料を準備した。

ア　「クラスが３人だったら何をしてあげられるか」についてのアンケート用紙を作成し、本時の前日までにこのアンケートを行い、結果を把握する。（P.18 参照）
イ　本時に使う記録用紙を準備する。
・ブレーンストーミングでの個人の意見を記入する用紙
・班の意見をまとめて記入し、黒板に掲示できる用紙
・授業のまとめシート（P.19 参照）

(2) 題材設定の理由

この題材の特徴は、「クラスが３人」という状況を設定することによって、人間関係が単純化され、クラスのために各自がするべきことをわかりやすく考えることができることにある。そのことは、大人数のクラス集団でも同様であることを認識させ、クラスの中で自分自身がどう行動するべきかを考えさせる。

また、「自分がしてあげられること」と「みんながしてほしいと思うこと」を比較することにより、クラスの中で自分が今まで以上にできることは何かを考えさせることをねらいとし、この題材を設定した。

(3) 学級の実態

明るく、穏やかな雰囲気のクラスである。おとなしく消極的な生徒が多いが、積極的に発言し、クラスの雰囲気を盛り上げる生徒もいる。ほとんどの生徒は素直に学習や学校生活に取り組んでいる。時には、他人の気持ちが理解できず厳しい口調で話したり、口論する姿が見られることもある。いくつかの仲の良い女子のグループもあるが、互いのグループ同士が反発しあうことはほとんどなく、協力的に行動できている。

また、クラスのまとまりを大きく乱す生徒はいないが、クラス全体を引っ張るようなリーダーシップを発揮できる生徒もいないため、団結力を高めることが課題と考える。

(4) 評価

評価については、P.12 の表を参照する。ただし、この題材については、生徒の発達段階と１年生から学習の深化・発展があることの視点から、以下の２点の評価規準を付け加えることとした。

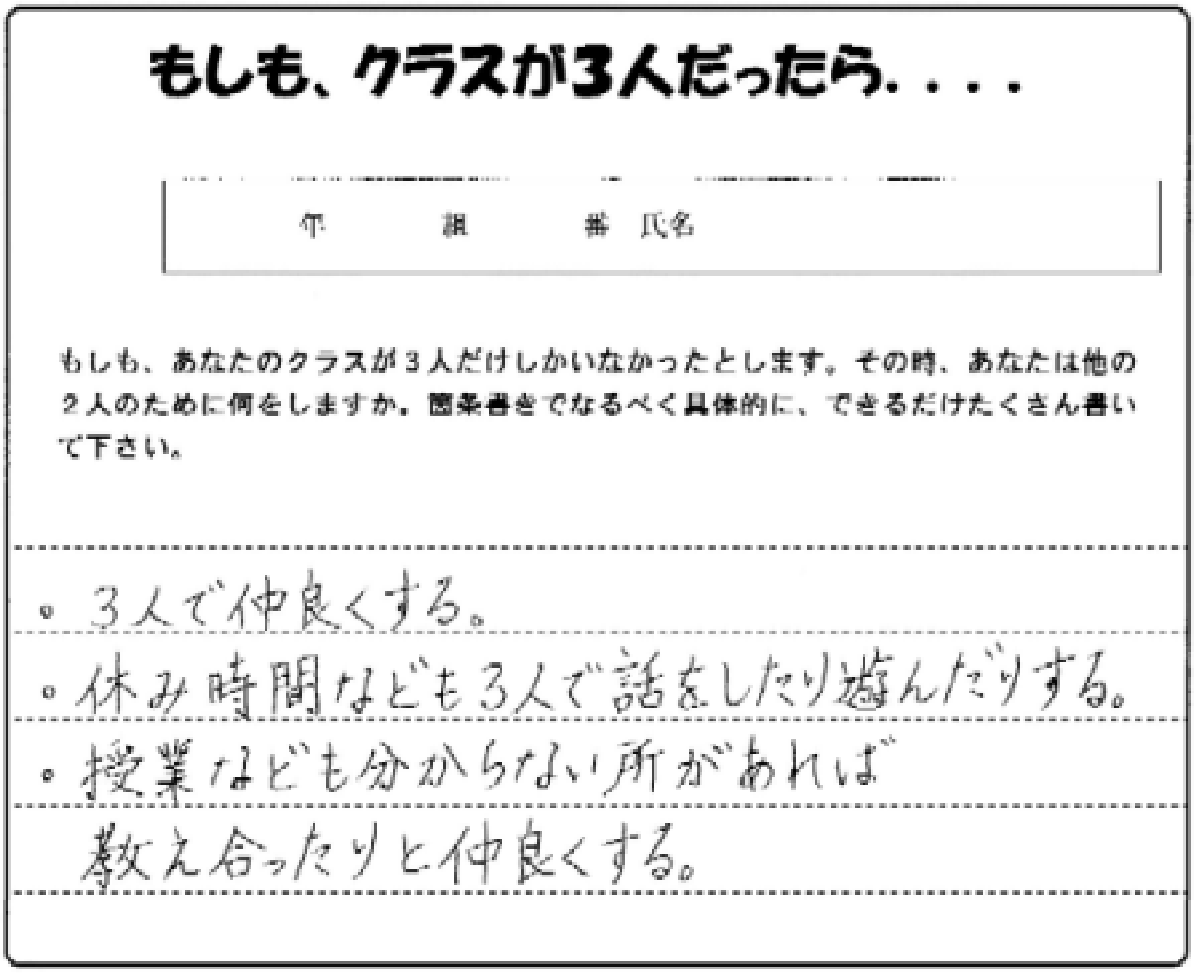
カ　より良いクラスをつくるための方策を真剣に考えることができたか。
（関心・意欲・態度）
キ　クラスのために自分の立場を理解して、自分がするべきことを考えることができたか。
（思考・判断）

(5) 本時の展開例

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入	・事前アンケートを返却する。	・「もしもクラスが３人だったら、他の２人のために何をするか」自分の答えを再確認する。	・特にここでは事前アンケートの内容についてはふれないでおく。	
	・本日の活動の意義と方法について説明する。	・教師の説明を聞く。	・活動内容を把握できるように説明し、不明な点は質問させる。 ・ブレーンストーミングのルールを再確認する。	ア
展 開	・本日のテーマを発表する。 「もしもクラスが３人だったら、他の２人に何をしてほしいか」 ・グループに分かれてブレーンストーミングを始める。	・各生徒にブレーンストーミング用紙を配布する。 ・各自の意見を用紙に記入する。 ・グループに分かれ、各自が記入した意見を発表する。班長がそれを「学級内での仕事」「学校生活」「学習」「友人関係」「その他」に分類し、班の意見をまとめて掲示用紙にサインペンで記入する。	・各自の意見は他人と相談せずに書かせる。 ・班長が意見をまとめるときに、全員の意見を排除しないように指示する。 ・ブレーンストーミングのルールが守られているか確認するために机間指導する。	ウ カ
	・意見を発表する。	・班長が班ごとにまとめた意見を発表し、黒板に分類ごとに掲示する。	・なるべく全員が見やすくなるように色分けするなど掲示の工夫をする。 ・できるだけ多くの意見を取り上げ、評価する。	エ
まとめ	・全体の意見を見て、気付いたことや共通点について発表する。 ・授業で気付いたこと、考えたことを確認し、本時のまとめをする。	・事前に書いた「自分がしてあげられること」と「周りがしてほしいと思っていること」の違いを考える。 ・様々な意見の中から、自分が気付かなかった考えを発見する。 ・事後アンケートの記入。	・「クラスが３人」というのは単純化しただけであって、クラスのために必要なことは３４人でも同じであることに気付かせる。	イ オ キ

(6) 指導資料

① 事前指導用アンケート



もしも、クラスが3人だったら．．．

年　組　番　氏名

もしも、あなたのクラスが３人だけしかいなかったとします。その時、あなたは他の２人のために何をしますか。箇条書きでなるべく具体的に、できるだけたくさん書いて下さい。

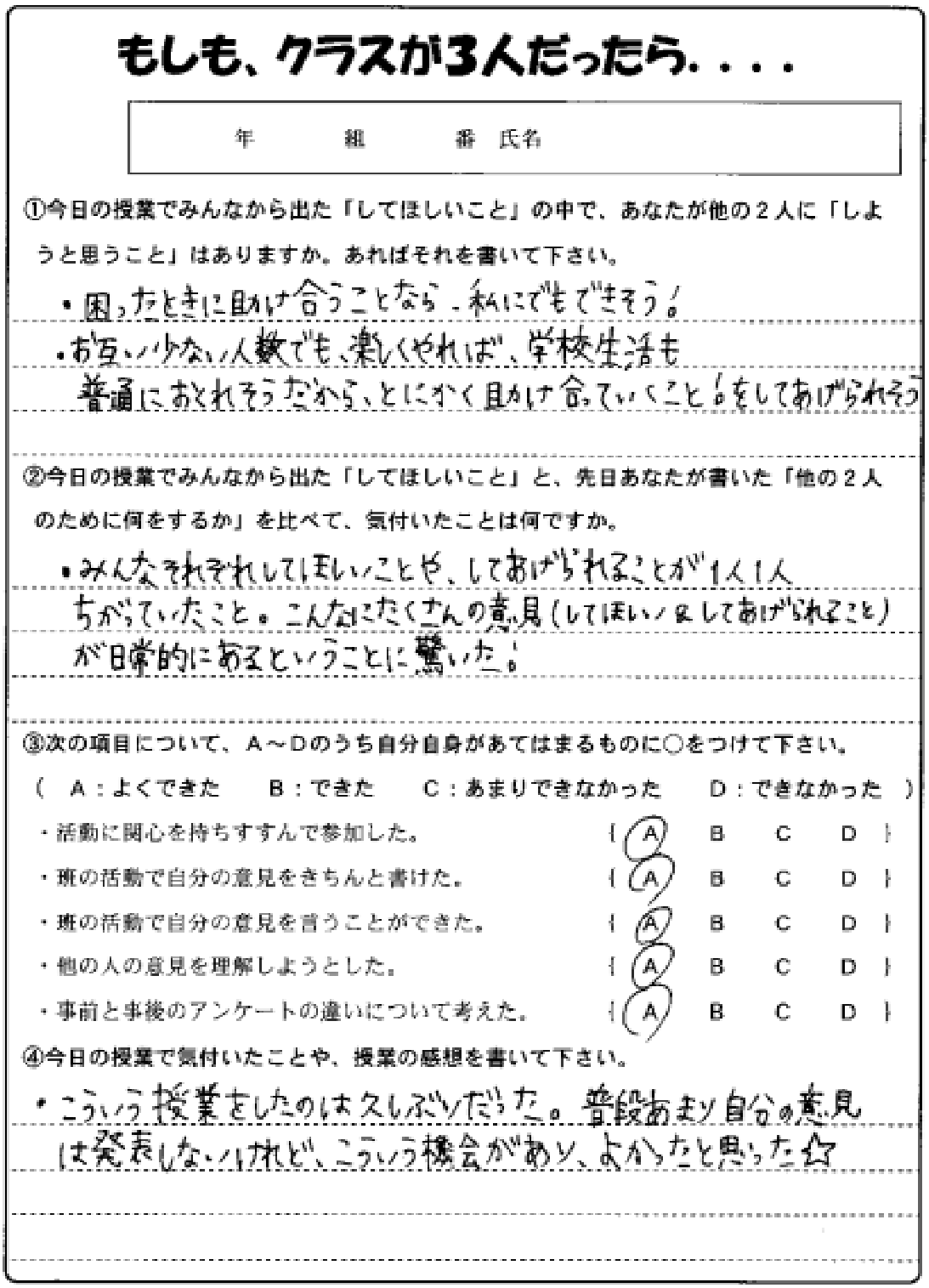
・3人で仲良くする。
・休み時間なども3人で話をしたり遊んだりする。
・授業なども分からない所があれば
教え合ったりと仲良くする。

ブレーンストーミングを取り入れた授業の中では、テーマによっては、「分類項目」をどのように設定するべきか、また、どの項目に生徒の意見が集まるか判断が難しい場面が起こり得る。項目が多すぎるとその中の意見が少なくなり、その後の授業展開がしにくくなる。逆に項目が少ないと、一つの項目に多くの意見が集まりすぎてしまい、生徒は、多種多様な意見や考えがあることを実感できなくなってしまう。このような問題点を解消するため、事前に上のような形式で、実際の授業に関連したテーマで簡単なアンケートをとると、生徒の意見がどのような傾向に分かれるか予測することができる。また、生徒にとって学習への意識付けにもなるので、授業が円滑に導入でき、生徒の意見を多く出させるきっかけとなる。

実際、本時の授業では、「学級内での仕事」、「学校生活」、「学習」、「友人関係」以外にも「学校行事」、「部活動」などの項目も考えられたが、このアンケートの結果から、人数が少ないと予想できるものは「その他」としてまとめ、５つの項目に整理して授業を行うことができた。

また、複数の意見を書いた生徒について、記述内容を分類すると、項目としては限定され、個人で考えた場合は意見や考えが同じ項目に片寄る傾向があることも分かった。

② 授業のまとめシート



もしも、クラスが3人だったら．．．

年　　組　　番　氏名

①今日の授業でみんなから出た「してほしいこと」の中で、あなたが他の２人に「しようと思うこと」はありますか。あればそれを書いて下さい。

・困ったときに助け合うことなら、私にでもできそう！
・お互いの少ない人数でも、楽しくやれば、学校生活も普通におくれそうだから、とにかく助け合っていくこと！をしてあげられそう

②今日の授業でみんなから出た「してほしいこと」と、先日あなたが書いた「他の２人のために何をするか」を比べて、気付いたことは何ですか。

・みんなそれぞれしてほしいことや、してあげられることが1人1人ちがっていたこと。こんなにたくさんの意見（してほしいのやしてあげられること）が日常的にあるということに驚いた！

③次の項目について、Ａ～Ｄのうち自分自身があてはまるものに○をつけて下さい。

（　Ａ：よくできた　　Ｂ：できた　　Ｃ：あまりできなかった　　Ｄ：できなかった　）

・活動に関心を持ちすすんで参加した。	(A)	B	C	D
・班の活動で自分の意見をきちんと書けた。	(A)	B	C	D
・班の活動で自分の意見を言うことができた。	(A)	B	C	D
・他の人の意見を理解しようとした。	(A)	B	C	D
・事前と事後のアンケートの違いについて考えた。	(A)	B	C	D

④今日の授業で気付いたことや、授業の感想を書いて下さい。

・こういう授業をしたのは久しぶりだった。普段あまり自分の意見は発表しないけれど、こういう機会があり、よかったと思った☆

このまとめシートの質問については、評価規準に基づいた項目から選び作成した。生徒が記述した内容には、「たくさんの他の人の意見を知ることができた」「みんなの意見が全部見られるのでこの話し合いはよかった」「前回ブレーンストーミングをやったときよりたくさんの意見を出すことができた」などという意見があり、生徒はブレーンストーミングによって自己の表現力を高めたり、他の考えを認めたりできたことを実感していた。

５　授業の結果と考察

(1) 実践事例の結果

① ワークシートにみられる授業の振り返り

ア 授業実践(1)における「まとめのワークシート(p.14参照)」から、質問の項目４～７について集計した結果は以下の通りである。（回答数３５）

項目４ 自分の考えをしっかり伝えることができたか…できた88%、できなかった12%

項目５ 他の人の考えを否定せず、認めることができたか…できた97%、できなかった3%

項目６ 他の人の考えを聞いて自分の考えを広げることができたか…できた76%、できなかった24%

項目７ ブレーンストーミングをやってどう思ったか…おもしろくてはっきりと意見を言えた、自分の意見が言えて楽しかった、いろんな意見から自分の考えが広がることが分かった、人の意見を聞くことで自分の意見がよくなることが分かった など

イ 授業実践(2)における「授業のまとめシート(p.19参照)」から、質問の項目１～５について集計した結果は以下の通りである。（回答数２９）

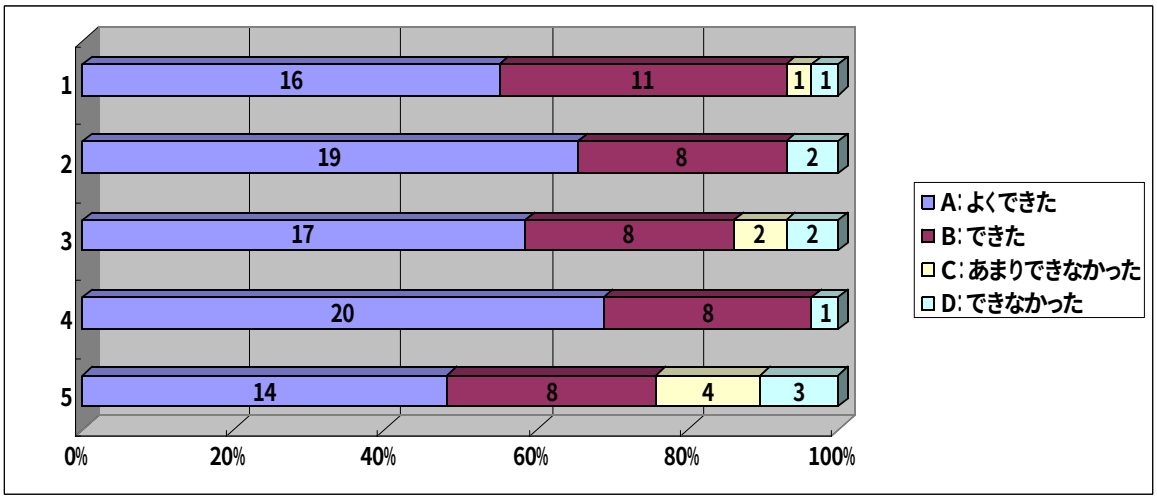
項目１ 活動に関心をもち、進んで参加することができたか

項目２ 班の活動で自分の意見をきちんと書くことができたか

項目３ 班の活動で自分の意見を言うことができたか

項目４ 他の人の意見を理解しようとしたか

項目５ 事前と事後のアンケートの違いについて考えることができたか



授業後のワークシートの結果をみると、授業実践(1)(2)ともに85%以上の生徒が「自分の考えを言うことができた」「書くことができた」と答えている。ブレーンストーミングの「考えを紙に書く」という方法をとることで、普段あまり発言ができない生徒でも、自分の考えを表現しやすかったのではないかと考える。

また、ごく少数の生徒は「意見が言えなかった」と答えていたが、「他の人の意見を理解しようとした」では「できた」と答えていた。この項目は実践(1)(2)ともに、最も多くの生徒が「できた」と答えている。一人一人の意見が紙に書かれ、それを見やすく色分けして分類することにより、より整理されたわかりやすい形で、一人一人の思っていることがお互いに伝わり合うのではないかと考えられる。

授業の様子では、ブレーンストーミングの回数を重ねるごとに、無理なくルールを守り、円滑に意見が出し合えるようになっていった。

授業実践(2)の「もしクラスが３人だったら」というテーマは、授業実践(1)と比べると、生徒にとってはイメージしにくいため、意見が出しにくいのではないかという心配もあったが、事前にアンケートをとったり、授業のはじめに教師が「今日のねらい」についてしっかりと伝えたりすることで、一人の生徒がいくつもの意見を出すことができていた。**（写真１）**

(写真1：用紙を掲示する生徒の様子)

グループ活動に入ってからも、各班のリーダーとなる生徒を中心に意見の分類や統合をし、発表の段階では自分の意見が出されると嬉しそうな表情を見せる生徒もいた。実践(1)では、他人の意見から新たな考えを生み出す生徒も多く見られた。また、自分とは違う他人の意見から自分では気付かなかったことにも気が付くことができ、他人の意見を認めることで自分の視野が広がることを実感できたと思われる。

アンケート項目の全ての欄にＡ（とてもよくできた）に印をつけた生徒も多く、「話合い」があまり好きではなかった生徒たちから「楽しかった」「またやりたい」など肯定的で前向きな感想や結果が得られた。

② ワークシートにみられる生徒の感想

ア 授業実践(1)における「話合い」や、「ブレーンストーミング」についての生徒の記述

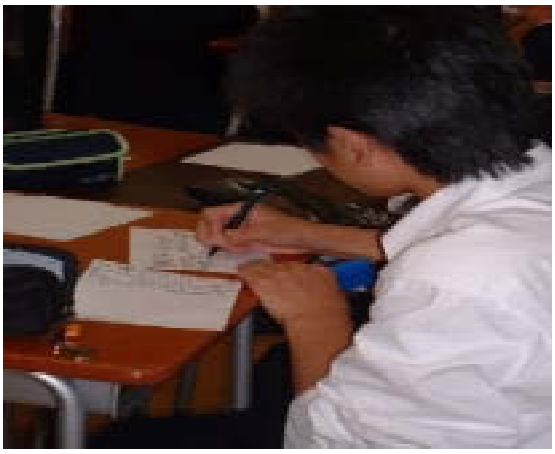
- 活動に夢中になれておもしろかった。みんなとの話し合いが楽しかった。
- みんなの意見がそろうとたくさんあると思った。自分と似た意見の人もいれば違う意見の人もいることに気付いた。
- 普段あまり自分の意見は発表しないけれど、こういう機会があってよかったと思った。
- このような話合いのやり方は、みんなの意見が全部見られるからいいと思った。
- 以前のハンバーガーの時より多くの意見が出せたと思う。
- こういった授業をまたやってみたい。

イ 授業実践(2)における「話合い」や、「ブレーンストーミング」についての生徒の記述

- 自分がしてあげられることは、みんなもしてほしい事と一緒だということが分かった。だから､自分がしてほしくないこともみんなと同じだと思うから気をつけようと思った。
- 友達にしてあげられることはあまり気付いていなかったことも、してほしい側になるといろいろあった。立場が変わると、気付かなかったことがとても多かった。
- 自分がしてほしいと思うことは、他の人にもしてあげられることだと思った。そうできるようにならないといけないと思った。

(2) 実践事例の考察

テーマ（課題）に対し、自由な意見を出すことによって生徒一人一人の個性的な考えを引き出すことが可能となる。指導展開の中で、「発言や発案に批判をしない。」というルールを確認しつつブレーンストーミングを実施した結果、生徒は、他から否定されない安心感や既成観念、固定観念から解放され自由な発想を呼び起こすことできたと考えられる。授業後、「自分と似た意見の人もいれば違う意見の人もいることに気付いた」「自分が出した意見よりも、みんなが出した意見の方がよかったような感じがする」などの感想が出され、生徒の個性豊かな表現力をみることができた。**（写真２）**

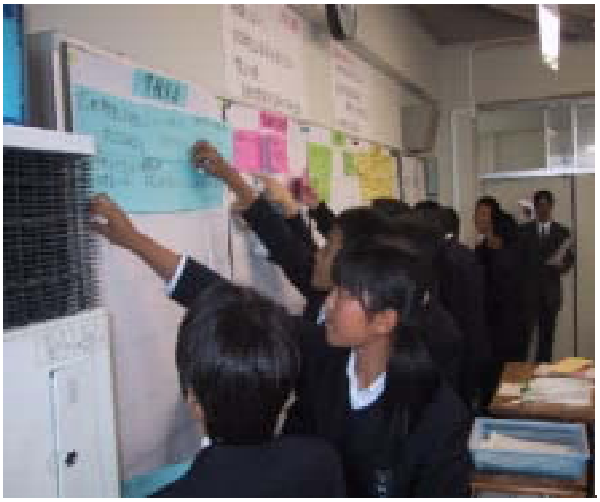


（写真２：自分の意見を記入する生徒）

（写真３：班の意見をまとめている生徒）

実践事例(2)の「もしクラスが３人だったら何をしてほしいか」「他の２人のために何をするか」という課題では、自分が友達のためにできること、友達にしてほしいことを具体的に上げていくことにより、クラスのために各自がするべきことをわかりやすく考えることができた。そのことを応用して、人数が増えた場合も同様の考え方が大切であることを認識させ、クラスという集団の中で自分自身がどう行動するべきかを知るよい機会となったと考えられる。普段あまり話をしない友だちともブレーンストーミングを使った話合いの形式では、自由な意見が出されるため、人間関係の広がりや深まりが可能になると考えられる。**（写真３）**

ブレーンストーミングを取り入れた話合いは、クラスの友達の自由な意見を聞いた上で、さらなるアイデアや意見を導き出す力の向上に有効だと考えられる。実践事例(1)の「ハンバーガーの新商品を考えよう」という課題ではクラスの中から出された意見に自分の考えを加え、全く新しい商品へとつなげることができた。また、形や大きさといった独創的な意見も多く出され、個性豊かな発想力と生徒が持っている発展力という力を引き出すことができたと考えられる。**（写真４）**



（写真４：新しい意見を加えている生徒）

今回の授業を通して、生徒から多くの意見が出たということ、出された意見を掲示することで、より新しい意見が出せたことがわかる。日常の話合いの中ではあまり目立たない生徒も、自分の意見が掲示、発表されることで自信につながり、さらなる意見を言いやすいクラス環境がつくれていくことができたのではないかと思われる。さらに授業では、ブレーンストーミングの導入をかねてテーマ（課題）を決定したが、課題の工夫としてクラスの目標づくりや各行事でのスローガン決め、約束ごとなどを決めていく活動ではその効果が期待できる。

(3) ブレーンストーミングを取り入れた授業の成果

授業実践(1)(2)の結果と考察から、ブレーンストーミングを取り入れた授業の成果を次の５点にまとめた。

1 自分の意見が否定される心配がないため、生徒は安心して様々な意見を出し、発言することに消極的な生徒にも自信をもたせることができた。
2 「好きなこと」「ハンバーガーの新商品」「もしクラスが３人だったら」の主題で話合いを行ったことは、生徒の発想を引き出し、学級での話合い活動を活発にすることができた。
3 話合いの時間を十分とることで、生徒は、出された意見の中からさらに発展させた意見や考えを導き出すことができた。
4 生徒は、互いの意見を受容し合うことで、友だちの意外な一面を知ることや新たな発見をすることができた。
5 学級やグループ内で様々な意見や考えを統合し発展させていく作業を通して、リーダーを育てることができた。

また、以上の成果は、授業後の感想やその後の学級内における生徒の活動の様子などから、生徒一人一人の変容にも結びついたと考えられる。このことから、授業を通して生徒に育成されたと考えられる資質や能力は、「自己を表現する力」「自己を理解する力」「他者を理解する力」「学級で団結する力」「新たに発想する力」の５点ととらえた。

(4) 授業における評価の工夫と結果

本研究での評価は、生徒の観察と授業後のワークシートを活用するという手法を用いた。具体的な生徒の授業への取り組みの状況や授業後の変容をとらえて評価の観点や規準に照らし合わせ評価をした。授業後に、作成した評価の観点や規準を見直していくことや、生徒の変容を客観的に判断できる評価方法について検討することとした。

ワークシートの自己評価や研究員の授業観察により生徒の評価を行った結果は、「満足できる」「おおむね満足できる」が大多数を占めた。授業時の観察が基本となるが、生徒一人一人がどのように考え、どのように思ったかをまとめ、教師にとって、生徒理解の一助となる点でワークシートの活用のねらいが達成できたと考える。

また、指導案の中でそれぞれの学習活動に対する評価の観点と評価規準を示したことで、指導の過程における生徒の形成的な評価を行うこともできたと考える。

III　研究のまとめと今後の課題

ブレーンストーミングの特徴をどのように学級活動で生かし指導に取り入れると、生徒は自己表現に自信をもち、他者理解ができ、学級の円滑な人間関係を形成することに効果を上げることができるか探った。研究のスタートにあたって設定した研究の仮説についての検証は、本研究で十分に達成することができたとはいえないが、下記のとおり研究の結果をまとめ、課題について整理することができた。

１　研究のまとめ

(1) 年間指導計画について

生徒が集団生活をしていく中で、不安感や不適応感を抱きやすい時期を選択し、年間の指導時数を４時間と設定した。ブレーンストーミングは、様々な意見を出し、新しいアイディアを創造するひとつの方法としての価値は従前から認められていたが、本研究では、新たに学級活動の指導の中でいつどのような内容で取り入れることが、より指導効果が高めることができるか年間指導計画の中で提示した。各学年４時間の指導計画は、それぞれの学校における学校行事の年間計画や生徒の実態に合わせて柔軟に対応できるように内容を精選した。

(2) 学級活動の授業実践について

平成15年10月に都内公立中学校２校で行った学級活動の授業実践では、生徒が授業に興味・関心をもちながら、ブレーンストーミングの手法を身に付け、自信をもって自己表現をすることができた。ブレーンストーミングの手法を活用してアイディアを出し合い、新たな創造や問題の解決を図る場面は、学校生活の中で学級活動だけとは限らない。学級から学年へ、学年から学校へとブレーンストーミングを用いた活動を発展させていくことが考えられる。また、この授業を通してリーダーとして集団をまとめる力をつけた生徒もおり、この面からも指導のねらいを達成できたと考えられる。

(3)評価について

授業観察及び授業後の自己評価カードを基に評価が行われたが、ともすると検証授業の時だけの評価にとどまることが多く、評価がその後の指導に生かされないことも指摘されてきた。検証授業を実施した授業者から、授業後の生徒の自己表現に対する自信の深まりや生活態度の変容などの報告があり、評価の客観性や評価を指導にフィードバックするねらいは、ある程度達成できたと考える。

２　今後の課題

(1) 年間指導計画について

学級活動にブレーンストーミングに取り入れる内容について、授業実践を通して指導事例集などにまとめるなど、年間指導計画の改善・充実を図る。

(2) 授業実践について

日頃の学級指導や生徒理解に基づく授業実践が基本であり、生徒のもつ能力を発揮させるガイダンス的な機能を活用したブレーンストーミングの開発も考えられる。

(3) 評価について

一人一人の生徒が自らの課題を発見し、自己評価に基づく自己啓発ができるような学級活動の評価を開発する。

平成１５年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成１５年度　　第３１号

平成１６年1月２１日

編集・発行　　東京都教職員研修センター
所在地　　東京都目黒区目黒１－１－１４
電話番号　０３－５４３４－１９７４

印刷会社名　　勝田印刷株式会社